

Audio Accessory 2019 AUTUMN 174 - JAPAN



の場の空気ごと丸ごと収めていく。お互いの生み出す音、そして呼吸を感じながら、一期一会のサウンドを刻んでいく。

**ほとんど2発録り
声の震えさえも、悪くない**

実は生形氏のこだわりは、リスニング用の多彩なオーディオアクセサリの使いこなしにも現れる。ラックスマンのクリーン電源やフルテックのNCFブースターなどいくつかのアイテムが持ち込まれていたが、特にこだわったのはマイクケーブル。マイクはAKGのC414を使っているが、そこにオヤイデ電気の銀線導体ケーブルAR-910を採用している。「マイクは音の入り口であり、今回のようにギターと声だけというシンプルな録音では一番大事なポイントです。機材のキャラクターではなく、ありのままのリアルな音が欲しかったんです」

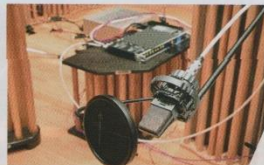
今回のアルバムでは、ダビングはほとんど入れずに、ほとんど1発録りに近い状態の音源となっている。実際に完成した音源を試聴してみると、まさに「スーパーナチュラル」の言葉の通り、等身大の2人の姿が眼前に浮かび上がる。2人の声のユニゾンが美しい「ひとつ屋根の下」、たっ



マイクプリでADした信号はMADI伝送でモニタリングルームへ。MADI信号はRME MADIFace Proで受信。本体下にシックスエレメントのシート状アクセサリーを設置。PCとの接続はクリプトンのUSBケーブルUC-HRを使用。モニタリング用のバランスケーブルはナノテックスシステムズ Music Strada #208を使った自作品を用いた



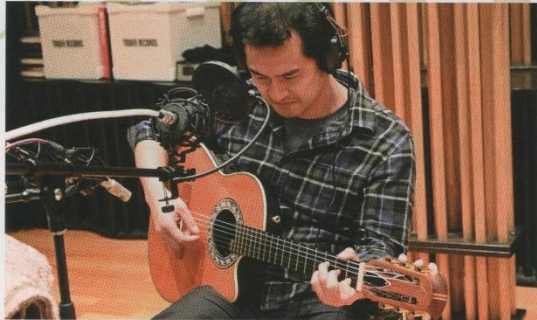
電源には、自宅のオーディオシステムでも使用しているラックスマンのES-1200を常用。今回のCDに収録されている音源は、野外での生録音源を除き、全てES-1200を使用して収録されている



演奏者の声質と今回のアルバムコンセプトを鑑みて、乾さんのヴォーカルマイクにはAKGの銘機C414 B-ULS(1986年発売)を使用。ケーブルも、声質やマイクとの音質の相性を考慮しNEO(オヤイデ)の純銀ケーブルAR-910Mをチョイス。ポップガードも、音質を考えネットタイプを選択



マイクプリアンプ及びA/DコンバーターにはRME OctaMic XTCを使用。本体天板にはシックスエレメントのシート状アクセサリーを配置して機材のポテンシャルを最大限に発揮させる。また、各種ケーブルのコネクター部にはフルテックNCF Boosterを用いて信号経路をケア



鐘野さんのヴォーカルマイク、ケーブル、ポップガード、ヘッドホンも乾さんと同じものを使用。アコースティックギターにはSHURE KSM141を指向性モードで2本使用し、ステレオで収録している。マイクケーブルにはナノテックスシステムズ Music Strada #208を使った自作品を使用。ほかに、アンビエンス収録用にセンハイザー-MKH 8020を2本設置している



2人の間には、吸音パネルを挟んで大型の床用ANKHを2台設置して、遮音と拡散効果を狙っている。また、乾さんを取り囲むように3台のSYLVANを設置。有りと無し状態で録音し比較したところ、SYLVANを追加で設置した方が、歌声がより生き生きとした表情になった。収録曲2曲は、それらAGSのみによるアンビエンスがそのまま収録されており、リヴァーブなどの残響エフェクトは一切使用していない

広がりや2人の一体感、 空気感が生きている



音のチェックは民生機で

後日、生形氏がミックスした音をaiiaiの2人と高木プロデューサーにもお聴かせて音決めた。

レファレンス機器

プリアンプ: LUXMAN C700u
パワーアンプ: LUXMAN M700u×2台
スピーカーシステム: TAD TAD-ME1



乾さんはヴォーカルのほかカスタネットやスライドホイッスルなどを演奏されたが、それらもあえてヴォーカルマイクで収録。ヘッドフォンは、ヴォーカル表現の生々しさと聴き疲れの少なさを、平面振動板によるセミオープンタイプのフォステクス T50RP MK3を採用

た2つのコードを時間をかけて展開していく「Monday」、乾のナレーションの生々しさからその世界に引き込まれる「目が醒めて」など、さりげない日常に潜むちょっとした発見が丹念に歌い上げられていく。

今回のレコーディングは、乾のこれからの音楽作りにも影響を与えたという。いままでもレコーディングでは、うまくやらなくちゃ、ってことはばかり考えていました。でも声の震えや緊張もこうやって聴くととても生々しくて、悪くないなって思えました。うまくやることだけじゃなくて、音楽性のためにやっているんだ、ってことを改めて教えてもらいましたね」

ちなみに付録にいただいた2曲は、アルバム本体の収録が終わった最後に録音したものである(アルバムには収録しない、本付録企画のために録っていた)。

「その場のアドリブも交えてやりましたが、2人ともとてもリラックスしてましたよ」とプロデューサー高木さんの言。本誌だけのスペシャル録り下ろし音源、ぜひ楽しんで欲しい。



GERL-1003

a i a i : 乾未樹 (vocal, glockenspiel, pianica, windbells etc..) 館野公一 (vocal, guitar, footsteps etc..)
Words & Music : 乾未樹 (track2, 5, 9) 館野公一 (track1, 3, 4, 6, 7, 8, 10) Arrangement : a i a i
Recording, Mixing, Mastering Engineer & Co Produce : 生形三郎 (audio activist)
Recorded at 日本音響エンジニアリング (April 2019) Director : 蒲池岳 (disk union)
A&R, Produce for SUPER NATURAL : 高木健太郎 (disk union)
Art Direction & Design & Illustration : 三好愛 (www.344i.com)
Sponsor for Recording Equipments :
日本音響エンジニアリング株式会社 ラックスマン株式会社 株式会社小柳出電気商会
フォスター電機株式会社 フォステクスカンパニー フルテック株式会社
Special Thanks :
高崎素行 根木健太 小林善彦 Honoka 弓立寛子 野間美紀子 筑井真奈 君嶋寛慶 高木信之